

E N E O S 海外渡航支援事業報告書（留学渡航）

2026 年 2 月 18 日

工学部 工学研究科修士課程（どちらか○で囲む）

所属学科・専攻・回生

建築学 学科・専攻

1 回生

氏 名

1. 渡航期間 2025 年 9 月 10 日 から 2026 年 2 月 9 日

2. 渡航先（国・場所・機関等）

マレーシア、ジョホールバル、マレーシア工科大学

3. 留学で得られた成果（概要）

私がマレーシア工科大学への留学で得た成果は、研究活動と課外活動の両面で、自ら行動し周囲と協力して目標を達成する力を身につけたことである。研究活動では、マレーシアの住宅地における住環境の実態に関心を持ち、現地学生と共同研究を行った。文化や研究に対する姿勢の違いから、当初は議論が進まず調査が停滞することもあったが、調査内容や役割分担を整理し、進捗を共有することで協力体制を整えた。その結果、現地調査や住民へのインタビューを実施し、成果を論文としてまとめ、学内で発表することができた。この経験を通じて、異なる背景を持つ人々と協力しながら一つの成果を形にすることの難しさと意義を学んだ。また、課外活動として現地のバドミントンクラブに所属し、現地学生とペアを組んで大会優勝を目標に練習に取り組んだ。言語やプレースタイルの違いから試合で思うような結果が出ない時期もあったが、試合動画を見返しながら課題を分析し、積極的に意見交換を重ねた。その結果、徐々に連携が向上し、大会で準優勝の好成績を収めることができた。この経験から、困難な状況でも工夫を重ね努力を続けることの大切さを実感した。これらの経験を通じて、異文化環境の中でも主体的に行動し、周囲と協力しながら物事に取り組む力を養うことができた。この留学で得た学びを、今後の研究や将来の活動に活かしていきたい。

4. 奨学金の使途

主に授業料や現地での交通費、食費、滞在費など